

同窓会だより

ノーベル化学賞をめざす 新進気鋭の薬学者

継続は力なり

丸山 徹 (16期生)



私は第一六期生として三年間、真和高校にお世話になりました。在学中は決して出来ていなかったK先生、T先生、江上先生や生活面で親身にこ指導いただいたI先生には大変ご迷惑をおかけしました。現在、学生を教える立場に立つて、当時の先生方の苦勞が少しずつ実感できるようになりました。先生方に対する感謝の気持ちが大きく残っています。この場を借り

てお礼申し上げます。また、三年生の時に数学が専門の江上先生に担任していただいたおかげで、微積分が好きになりました。微積分を活用して「クスリ」の体内における運命をシミュレーションするため、講義を大学で担当してあり、教えていただいたことが大変役立っています。

ここで少し、私の専門である「薬学」についてご紹介したいと思います。現在、人間は科学技術の進歩に伴い、宇宙に広がるようになり、宇宙体験ツアーまで企画されるようになってきました。実は、アスリという小さな物質の中にも、ロケットを超えるような科学技術が凝縮されています。残念なことには、未だ「ガン」を壊滅するような特効薬や予防薬、

あるは「エイズ」のワクチンは開発されていません。これは生命や人体が非常に複雑で奥が深く、未だ解明されていない部分が多いためです。このような人類の難問に科学の力でチャレンジするのが「薬学」です。

ところで、新しい「クスリ」とどのようにして創られるのかご存じですか？実は、費用にして一五〇〇〇〇〇億円、開発期間は以前に比べて短くなつてきました。それが、十年〜十五年はかかりますが、新薬成功の確率は、わずか二、八八八分の一しかなく、その技術を有している国は日本以外ではアメリカと一部のヨーロッパにありません。そのため、クスリ創り(創薬)は資源の無い日本にとって、非常に魅力的な国際競争産業へ成長している。政府もグロム創薬を始めとした創薬を国家戦略の重点事業と位置付けており、薬学には国際競争力を有する創薬研究者の育成が要請されています。

一方、連日のように医療事故がテレビや新聞を賑わせていますが、実はその多くが「クスリ」に関連したものです。「クスリ」は逆さまから読むと「リス」となり、適切に使用しないと非常に危険です。あるアメリカの調査では、薬の副作用で死亡する人は全死因の第四位であること、また、この薬害の多くが不適切な使用によるものであると考えられています。このような状況下で、医療技術の高度化に伴う「クスリ」の安全性かつ効果的な使用や薬害の防止といった社会的要請に応えるため、医療の担い手として高度な薬剤師の養成教育が求められています。

そのため、二〇〇六年四月より薬学における新しい教育制度として薬学教育六年制がスタートしました。私が所属している熊本大学薬学部でも、「薬学」は、ヒトの命に関わる薬という化学物質を通して、人類の健康維持と疾病の治療を使命とする総合科学である」との理念のもと、薬剤師養成の六年制課程として「薬学科」を設置するとともに、従来の四年制学科の特色を活かした研究養成に特化した「創薬・生命薬科学科」を設置しています。

「期待値をこえて」

真和中学・高等学校育友会会長 馬場 成志



活動へのご協力、心より感謝申し上げます。この季節、まだ進級したばかりですが、生徒達は希望を、保護者の皆さんは子どもさん達に大きな期待を寄せられていることと存じます。大きな目標を掲げ、一日一日、着実な歩みを重ねていきたいと思います。この四月に熊本県知事

に就任した蒲島郁夫さんは、子ども達の可能性は無限大であると言っています。自分自身が貧しい環境から始まり、学校での成績も決して褒められる様なものではなかった。しかし、夢を持つことで努力をすることができ、東京大学の教授になりました。節目節目で沢山の人が助けてもらったという

ことですが、常に期待値を少しだけ超えていくことができれば、周りの人が助けてくれるとも話しています。人生の中で人との出会いとはとても大切です。自らを取り巻く人達に感謝しながら精神を強くし、周囲の期待値を超えていくことで、生徒達の未来が無限に広がると考えます。子ども達にブレッシンジャーを掛け過ぎないことも付け加えて頂きながら、生徒達の真和での毎日が充実したものでありますよう、心から期待申し上げます、ご挨拶とします。

合という本学の特長を活かし、「薬学科」では高度化する医療において薬物治療の指導者となる質の高い薬剤師、疾病の予防及び治療に貢献する臨床研究者として活躍する人材の育成を、他方、「創薬・生命薬科学科」では独自の発想力、探究心、創薬マインドを育みながら、国際競争力のある創薬科学や生命薬科学分野の先端的研究者、医薬品等の開発、生産、管理の場で先導的役割を担う研究者、技術者及び医薬品情報担当者等として活躍する人材の育成を目指しています。これらの教育、研究を支援する目的で、二〇〇六年に全国の国立大学薬学系大学では初めて、薬学部附属の創薬研究センターが、さらに本年四月からは育薬フロンティアセンターが設置されました。このように本学部は、新しい教育制度のもと、大きな変革を

送り出すとされています。薬学は、ゲノム創薬やオーダーメイド医療の実現に向けて今なお、夢とロマンにあふれた学問分野です。創造性豊かでチャレンジ精神旺盛な後輩諸君、熊本大学薬学部に入學をめざしましょう！

「高き理想を抱くわれら、集いて開く真理の扉、虹を呼ぶ未来の夢を、描きつつ日々をいそむべし。これは、皆さんご存じの真和高校(中学)の校歌です。正直なところ、在学中はあまり歌詞の意味を理解せずに歌っていたところがありましたが、卒業後、自分の人生や進路を模索しているときに、日に日に校歌の言葉の意味を実感できるようになってきました。是非、在校生の皆さんも素晴らしい校歌を忘れずに、高き理想を持って、未来の夢を描きつつ、学生生活を送ってください。

クラブ・同好会紹介

「文化部」

- 吹奏部(飛本)
- 文芸部(北本)
- 写真部(宮本)
- コーラス部(元田(善徳))
- オケストラ部(長坂)
- 演劇部(飯島)
- 生物部(飯島、河原野)
- 学物吹奏楽部(日野)
- 化学同好会(野田、元田)
- イラスト同好会(福岡)
- 囲碁将棋同好会(高洲)
- ESS同好会(北野)
- オペラ同好会(中島)
- パソコン同好会(長坂)
- 古典芸能同好会(都田)

「体育部」

- 軟式野球部(國武(都田))
- 空手部(小森(西村))
- 剣道部(松本)
- サッカー部(栗山(野田))
- ハンドボール部(天村(安部))
- 女子新体操部(玉置)
- 弓道部(元田(野田、木村))
- バスケットボール部(高(長尾))
- バスケットボール部(中(高洲(足立))
- テニス部(山口(田村(中林))
- バドミントン部(田嶋(宮崎))
- 陸上部(高本(和田))
- 卓球部(中島(影山(赤司))



活、さらには将来の道歩んで下さい。

その際、私自身がとても大切だと思っなのは、真和通信の第三十一号で杉村友友会会長が述べておられるように、「継続することだ」と思います。最近、色々な場面で見聞きしてありますが、皆さんに共通しているのは自身の目標、信念を「継続」して持ち続け、それに対する努力を「継続」されておられることでした。言うは簡単で、実際に継続することはなかなか難しいとは思いますが、夢を実現するために継続が必要不可欠だと思えます。最後になりましたが、皆さんの心の故郷でもありますが、私の心の故郷でもあります真和高校の皆さんの発展を心から願っております。

略歴

丸山 徹(まるやまとおる)

1963年 熊本県熊本市生まれ

1978年 熊本市立白川中学卒業

1981年 真和高校卒業(第16期) 同年熊本大学薬学部入学

1990年 熊本大学大学院薬学研究科博士課程修了(薬学博士)。米フロリダ大学薬学部、米ペンシルバニア州立大学薬学部でポスト・ドクトラトフェロー(客員研究員)、財団法人ヒューマンサイエンスセンターとして活動後、熊本赤十字マリアン病院薬剤部を経て、(株)アライワ入社、2002年より同社常務取締役。

2006年4月より熊本大学薬学部教授(医療薬剤学分野担当)。

ホームページ
真和中学・高等学校
<http://www.shinwa.ed.jp>

真和同窓会(杏葉会)
<http://www.shinwa-dosokai.com>

同窓会お知らせ
平成20年度真和中学・高等学校
大同窓会(杏葉会)
講演会・総会・懇親会開催。
日時:平成20年6月14日(土)18時30分
場所:熊本ホテルキャッスルにて

- 平成二十年度
生徒役員名
- ◎生徒会長 山口 悠子(一)
 - ◎副会長 中村 謙二(一)
 - ◎役員
 - ◎代表員 清田 真仁(一)
 - 梅本 実果(一)
 - 櫻井 海朗(一)
 - 平山 幹朗(一)
 - 中川 悠二(一)
 - 杉本 里穂(一)

